



2022年9月28日

各 位

会社名 株式会社岐阜造園
 代表者名 代表取締役社長 山田 準
 (コード番号: 1438 東証スタンダード・名証メイン)
 問合せ先 取締役管理部担当 舟橋 恵一
 (TEL 058-272-4120)

東京証券取引所スタンダード市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日2022年9月28日付で東京証券取引所スタンダード市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます

なお、2022年9月期（2021年10月1日～2022年9月30日）における当社グループの業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおり（添付資料は2022年8月10日に公表済みの資料です。）であります。

【連結】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2022年9月期 (予想)		2022年9月期 第3四半期累計期間 (実績)		2021年9月期 (実績)		
		対売上高 比率	対前期 増減率	対売上高 比率	対売上高 比率			
売上高		4,616	100.0	7.1	3,662	100.0	4,309	100.0
営業利益		400	8.7	27.7	334	9.1	313	7.3
経常利益		405	8.8	17.6	328	9.0	345	8.0
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益		271	5.9	22.8	217	5.9	221	5.1
1株当たり当期 (四半期)純利益		84円79銭			67円93銭		69円02銭	
1株当たり配当金 (1株当たり中間配当金)		20円00銭 (10円00銭)			— (10円00銭)		17円50銭 (7円50銭)	

(注) 1. 2021年9月期(実績)、2022年9月期第3四半期累計期間(実績)及び2022年9月期(予想)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。

2. 当社は、2021年6月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。これに伴い2021年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。又、1株当たり配当金については、2021年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出した場合の数値を記載しております。

【2022年9月期業績予想の前提条件】

(1) 全般的な見通し

当社グループの事業は、造園緑化事業の単一セグメントであります。対象とする物件により、個人の庭園及び外構等の住空間を創造するものを「ガーデンエクステリア」、不特定多数の人が訪れるパブリックスペースの空間を創造するものを「ランドスケープ」と区分しております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、建設業界の先行きは不透明な状況であります。当社グループでは、積極的に人員の増強を行い、営業および工事部門を強化したことで、ガーデンエクステリアにおいては、積水ハウス株式会社との業務提携による受注案件の大型化や共同プロジェクトの進捗が想定され、ランドスケープにおいては、首都圏を中心に開発案件の引合いが増加しており受注についても順調に推移していることから、2022年9月期の連結業績については、売上高 4,616,000 千円（前期比 7.1%増）、営業利益 400,126 千円（前期比 27.7%増）、経常利益 405,706 千円（前期比 17.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は 271,588 千円（前期比 22.8%増）を見込んでおります。

(2) 売上高

2022年9月期における売上高の計画は、2021年9月期末時点における受注残、折衝中の案件に関する受注見込み、さらに今後、新規に獲得する案件の積み上げにより構成されます。2021年9月期末時点における受注残については、ガーデンエクステリア、ランドスケープともに2021年8月末時点の受注残の状況から、2021年9月末までの売上見込分を控除する方法により算出しております。折衝中の案件に関する受注見込みは、営業担当者別に受注見込案件の管理を行っており、個別案件ごとの受注確度をガーデンエクステリアにおいては、積水ハウスをはじめとしたハウスメーカーの案件が多くを占めており、ハウスメーカーが受注した案件については当社の受注確度が非常に高くなるため、Aランク（内定）100%、Bランク（ハウスメーカー受注済み）80%、Cランク（ハウスメーカー受注前）50%とし、ランドスケープにおいては、Aランク（内定）100%、Bランク（有力）55%、Cランク（折衝中）20%として算出しております。新規に獲得する案件については、過去2年間の新規獲得案件についての実績及び、各部門長と協議した直近半年程度の引き合い状況等を勘案し、各部門・子会社からの積み上げにより算出しております。

ガーデンエクステリアにおいては個人邸を元請で受注した場合は案件の折衝期間が短くリードタイムは3ヵ月以内と短い場合が多く、ハウスメーカーからの大型案件に関してのリードタイムは3ヵ月から半年と長くなります。2021年9月期末時点の受注残高、積水ハウスとの業務提携による案件の大型化及び受注増により 241,000 千円の売上増加、分譲住宅用の土地販売により 26,000 千円の売上増加および子会社(株式会社景匠館)により 71,166 千円の売上増加等を見込んでおりましたが、ハウスメーカーの案件は順調に推移しており、第3四半期までの売上は 2,156,625 千円（前年同期比 4.6%増）となりました。第4四半期においても同様の傾向が続いており通期では 2,816,000 千円（前期比 5.8%増）の売上高を見込んでおります。

ランドスケープにおいては大型案件の受注から完工までのリードタイムが半年から1年以上と比較的長くなります。2021年9月期末時点の受注残高はほぼ想定通り積み上がってはいたものの、大型案件の獲得状況の減少およびその工期日程が2023年9月期にずれ込むことにより 30,000 千円の売上減少、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による工事の一時中断および工期の延長等により 20,000 千円の売上減少を見込んでおりましたが、予算策定時の受注案件が追加受注を得て大型化した案件が複数発生したこと等により第3四半期までの売上は 1,505,862 千円（前年同期比 28.3%増）となりました。第4四半期においては大型案件の完工予定が無いため、通期では 1,800,000 千円（前期比 9.1%増）の売上高を見込んでおります。

以上の結果、全体では通期で 4,616,000 千円（前期比 7.1%増）の売上高を見込んでおります。

(3) 売上原価・売上総利益

2022年9月期における売上原価の計画は、売上高の計画における構成である2021年9月期末時点における受注残、折衝中の案件に関する受注見込、さらに今後、新規に獲得する案件に基づき算出しております。

受注残については、個別案件ごとに売上高から材料費・労務費・外注費・経費を控除した予定利益を算出し、売上高に対する予定利益の割合である予定利益率を設定して算出しております。受注見込案件分については過去および直近の同程度の内容・規模の工事の実績等を勘案して算出しております。また、新規に獲得する案件についても、過去2年間の新規獲得案件についての実績及び直近における予定利益率の状況等を勘案して算出しております。

第3四半期までのガーデンエクステリアにおける売上原価は1,553,884千円（前年同期比6.0%増）、売上総利益は602,741千円（前年同期比1.3%増）となりました。今後も当社が得意とする意匠性が高く付加価値を付けやすい自然石を使用した石積みや植栽を多く盛り込んだ設計提案を行うこと等で利益率のアップを図っていく予定であります。

この結果、2021年9月期の売上高総利益率28.6%に比べ2022年9月期の予定利益率は1.4%向上する見込みであり、ガーデンエクステリアにおける売上原価は1,970,784千円（前期比3.8%増）となり、売上総利益は845,216千円（前期比10.9%増）を見込んでおります。

第3四半期までのランドスケープにおける売上原価は1,087,586千円（前年同期比30.5%増）、売上総利益は418,275千円（前年同期比22.9%増）となりました。今後も各現場において実行予算について細部まで検証し管理を徹底することにより原価の低減を図っていく予定であります。

この結果2021年9月期の売上総利益率27.6%に比べ2022年9月期の予定利益率は0.4%向上する見込みであり、ランドスケープにおける売上原価は1,294,814千円（前期比8.4%増）、売上総利益は505,186千円（前期比10.9%増）を見込んでおります。

これらの結果、全体では通期で3,265,598千円（前期比5.6%増）の売上原価となり、売上総利益は1,350,402千円（前期比10.9%増）を見込んでおります。

(4) 販売費及び一般管理費・営業利益

販売費及び一般管理費については、各部門・子会社にて勘定科目ごとの積み上げにより算出しております。業容拡大に伴い9名の増員を予定しており人員確保の為の件費の増加（前期比13.3%増）等を見込んでおりましたが、計画通り中途採用を行ったこと等により第3四半期までの販売費及び一般管理費は686,295千円（前年同期比6.5%増）となり、営業利益は334,722千円となりました。第4四半期においても必要に応じて積極的に採用を行ってまいります。

これらの結果により、通期での販売費及び一般管理費は950,276千円（前期比5.1%増）となり、営業利益は400,126千円（前期比27.7%増）を見込んでおります。

(5) 営業外損益・経常利益

営業外損益については、勘定科目の内訳ごとに過去の実績を勘案の上、積み上げにより算出しております。

第3四半期までの営業外損益は、△5,922千円となり、経常利益は328,799千円となりました。

第4四半期末には、受取配当金、受取地代家賃、保険返戻金等、営業外収益として27,762千円（前期比31.1%減）、また支払利息、不動産賃貸費用、上場関連費用等、営業外費用として22,182千円（前期比154.8%増）を見込んでおります。営業外収益が前期比31.1%減少する主な要因は、保険返戻金が前期より10,398千円減少することを見込んだことによりです。また、営業外費用が前期比154.8%増加する主な要因は、上場関連費用として11,000千円を見込んだことによりです。

これらの結果により、経常利益は405,706千円（前期比17.6%増）を見込んでおります。

(6) 特別損益・親会社株主に帰属する当期純利益

特別利益及び特別損失については、特段見込んでおりません。

これらの結果、税金等調整前当期純利益は405,706千円（前期比22.7%増）となり、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純利益は271,588千円（前期比22.8%増）を見込んでおります。

【業績予想に関する留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理

的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、経済状況の変化や市場状況の変化等の様々な要因によって異なる場合があります。



2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月10日

上場会社名 株式会社岐阜造園 上場取引所 名
 コード番号 1438 URL <https://www.gifu-zohen.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田 準
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部担当 (氏名) 舟橋 恵一 TEL 058-272-4120
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績（2021年10月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	3,662	13.2	334	15.0	328	1.6	217	1.5
2021年9月期第3四半期	3,235	14.6	291	36.0	323	46.3	214	45.2

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 223百万円 (4.9%) 2021年9月期第3四半期 213百万円 (57.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	67.93	67.54
2021年9月期第3四半期	66.95	—

(注) 当社は、2021年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	4,434	3,237	73.0
2021年9月期	4,263	3,061	71.8

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 3,235百万円 2021年9月期 3,059百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	15.00	—	10.00	—
2022年9月期	—	10.00	—	—	—
2022年9月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、2021年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにともない、2021年9月期の期末配当金については、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。

3. 2022年9月期の連結業績予想（2021年10月1日～2022年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,616	7.1	400	27.7	405	17.6	271	22.8	84.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期3Q	3,203,600株	2021年9月期	3,203,600株
② 期末自己株式数	2022年9月期3Q	362株	2021年9月期	362株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年9月期3Q	3,203,238株	2021年9月期3Q	3,203,238株

(注) 当社は、2021年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、2021年9月期3Qの「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がワクチン接種の進行等により一時的に抑制されたものの、変異株の発生により収束時期を予測することが困難であるなど、依然として慎重な姿勢が求められております。さらに、資源価格の高騰やロシア・ウクライナ情勢などの地政学的リスクの懸念等もあり、景気に対する先行きは不透明な状況が継続しております。

建設業界においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、工事の一時中止、工期及び発注の延期等が余儀なくされる環境下にあるものの、公共建設投資については、国土強靱化等を背景に既存インフラの管理等を中心に底堅く推移しております。また、民間設備投資については徐々に持ち直しの傾向にありますが、建設資材価格の高騰等の影響もあり、予断を許さない状況が継続しております。一方で、建設業就業者数の減少及び高齢化はいっそう深刻化しており、労働力の確保が喫緊の課題となっております。

このような状況の下で、当社グループは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、受注活動や工事現場での施工に多少の影響は受けているものの、首都圏を中心に開発案件の受注が増加したことや、大手住宅メーカーとの業務提携による受注案件の大型化や共同プロジェクトの進捗等により、受注・売上ともに順調に推移しております。また、働き方改革を推進しつつ、積極的な人材の確保や教育プログラムの策定等、事業規模の継続的拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,662,488千円（前年同四半期比13.2%増）、営業利益は334,722千円（前年同四半期比15.0%増）、経常利益は328,799千円（前年同四半期比1.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は217,592千円（前年同四半期比1.5%増）となりました。

なお、当社グループは造園緑化事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形・完成工事未収入金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて170,376千円増加し、4,434,180千円となりました。

負債は、未成工事受入金が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べて5,628千円減少し、1,197,079千円となりました。

純資産は、利益剰余金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて176,005千円増加し、3,237,100千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後の事業環境、経済状況の変化等様々な要因により予想と大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,038,931	1,709,682
受取手形・完成工事未収入金	617,872	719,657
未成工事支出金	73,968	36,165
販売用不動産	172,490	166,676
その他	46,279	47,292
貸倒引当金	△2,744	△3,212
流動資産合計	2,946,797	2,676,261
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	427,818	441,925
土地	509,114	896,228
建設仮勘定	—	43,200
その他(純額)	30,838	31,049
有形固定資産合計	967,770	1,412,402
無形固定資産	9,741	6,961
投資その他の資産		
その他	350,332	352,092
貸倒引当金	△10,839	△13,539
投資その他の資産合計	339,493	338,553
固定資産合計	1,317,005	1,757,918
資産合計	4,263,803	4,434,180
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	373,127	384,865
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	20,076	23,412
未払法人税等	79,040	57,550
未成工事受入金	108,201	81,041
賞与引当金	34,221	5,569
完成工事補償引当金	7,266	7,406
その他	151,112	210,826
流動負債合計	973,045	970,673
固定負債		
長期借入金	33,024	23,797
役員退職慰労引当金	169,896	175,094
退職給付に係る負債	26,165	26,937
その他	576	576
固定負債合計	229,662	226,405
負債合計	1,202,708	1,197,079

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	396,417	396,417
資本剰余金	337,715	337,715
利益剰余金	2,323,677	2,493,276
自己株式	△243	△243
株主資本合計	3,057,567	3,227,165
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,157	8,290
その他の包括利益累計額合計	2,157	8,290
新株予約権	1,369	1,643
純資産合計	3,061,094	3,237,100
負債純資産合計	4,263,803	4,434,180

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上高	3,235,598	3,662,488
売上原価	2,300,111	2,641,471
売上総利益	935,487	1,021,017
販売費及び一般管理費	644,311	686,295
営業利益	291,175	334,722
営業外収益		
受取配当金	3,380	4,163
受取地代家賃	4,369	5,118
保険戻戻金	25,398	4,198
その他	4,349	6,350
営業外収益合計	37,498	19,831
営業外費用		
支払利息	1,070	531
投資有価証券評価損	—	12,632
不動産賃貸費用	3,972	6,758
その他	123	5,831
営業外費用合計	5,165	25,753
経常利益	323,508	328,799
税金等調整前四半期純利益	323,508	328,799
法人税、住民税及び事業税	98,064	110,113
法人税等調整額	10,995	1,093
法人税等合計	109,059	111,207
四半期純利益	214,448	217,592
親会社株主に帰属する四半期純利益	214,448	217,592

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	214,448	217,592
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,103	6,133
その他の包括利益合計	△1,103	6,133
四半期包括利益	213,345	223,725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	213,345	223,725

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来、工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる場合には工事進行基準を適用し、この要件を満たさない場合には工事完成基準を適用しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首より、一定の期間にわたり充足される履行義務として充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識する方法に変更しております。また、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積工事原価総額に占める発生原価の割合によるインプット法にて算出しております。ただし、工期のごく短い工事契約等については、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識する代替的な取扱いを適用しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,707千円増加し、売上原価は3,893千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,186千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は16,070千円増加しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響は、不確定要素が多く、今後の財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、造園緑化事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。